

## 1 全般状況

男子生徒 57 名、女子生徒 134 名の 191 名の新入生を迎えて始まった共学 2 年目である。  
大きな工事等もなく、比較的穏やかな 1 年であったが、職員が校務に使用する PC の変更があり、教職員は資料のデジタル化、校務の IT 化に取り組むこととなった。

## 2 事業概要

## (1) 定員、生徒数、教職員数等

## ア 入学定員等

普通課程 修業年限 3 年

入学定員 175 名 (1、2、3 年)

## イ 生徒数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

学年	募集定員	在籍生徒数	備考
1 年	175	188	平成 30 年度入学生
2 年	175	236	平成 29 年度入学生
3 年	175	145	平成 28 年度入学生
合計	525	568	

## ウ 教職員数 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

校長 1 教頭 1 教諭 24 養護教諭 1 常勤講師 5 事務職員 5 ALT 1 (計 38 名)

非常勤講師 21 非常勤カウンセラー 1 非常勤職員 4 司書 1 (計 27 名)

総計 65 名

## (2) 募集活動

- ・受験者内訳 男子 180 人 女子 503 人
- ・入学者内訳 男子 58 人 女子 154 人 国際教養コース 140 名 国際特進コース 72 名
- ・夏のオープンスクール 2 回 (参加者数 466 人)、秋のオープンスクール 2 回 (参加者数 393 人)、入試説明会 2 回 (486 人) のほか、延べ 28 校の中学校へ出向き、出張授業をおこなった。

## (3) 学校評価

関係者の協力を得て、様々な貴重な意見を頂いた。学校関係者評価は保護者アンケートとともにホームページ上に公開する。

## (4) 学習指導 進路指導

ア 進学状況では、AO、推薦で 10 名が国公立を受験し、5 名が合格した。うち 2 名は総合理系の生徒であった。一般入試まで粘る生徒も多く、最終的に国公立大学への進学者は 8 名、他に国立看護大学校への進学者が 1 名あった。特進生徒だけでなく、理系クラスを中心に総合コースの生徒が国公立大学や難関私大に挑戦する傾向が見られた。

イ 就職に関しては希望者 15 名、内定者 15 名、内定率 100%であった。スズキ株式会社、ヤマハ、ホテル九重、上池自動車学校など地元の企業に就職する者が多かった。

ウ PG (プレップガイド) は特別時間割を組まず、授業時間を利用して行った。

エ PT (プレップタイム・朝の学習) は見直しの時期に来ている。共学化を機に、朝の HR 開始を 8 時 30 分としたため、自主学習時間の確保が難しくなっている。

オ 検定に関しては、全校生徒の 44%にあたる 252 人が英語検定に挑戦したほか、漢字検定、数学検定、情報処理検定などに、多くの生徒が参加した。

カ 夏期補講は 42 講座実施、のべ 606 名が参加。(3 年 : 19 講座 123 人、2 年 : 13 講座 183 人、1 年 : 10 講座 300 人)

- キ 国語の授業でeラーニング「すららネット」を導入。放課後自主勉強のために情報処理室を訪れる生徒が多くなった。
- ク 試験的に電子黒板を1教室に導入し、ICTを利用した授業の試みを行った。地歴科や英語科でよく利用されている。

(5) 教育課程

3年の旧課程1,2年の新課程が混在しているが、前年度のようなアンバランスは解消されている。

(6) 奉仕活動

- ア 長年本校が協力してきた「あしなが学生募金」が浜松市で行われないことになり、1年生の募金全員参加の実施が危ぶまれたが、秋以降再開され、例年通り多くの生徒が参加した。
- イ 募金活動への全員参加が危ぶまれたため、クラスごとに企画して行う「クラスボランティア」を推進。不要になった本を送り、スクールサポートプログラムに寄付をするブックマジックなどに多くのクラスが参加した。
- ウ ここ数年行われている「蜷塚公園クリーン作戦」を今年も実施。1年生と2年生が11月に蜷塚公園の清掃活動を行い、身近な環境に目を向ける機会となった。

(7) 国際交流

- ア 今年度留学生はカナダ8名、イギリス2名、オーアラリア8名。
- イ 夏期短期留学はアメリカ研修には12名(1年11名、2年1名)が参加。今年から研修先をサンディエゴに移し、東武トップツアーズと現地の留学斡旋団体SKYUSによって運営されるプログラムとなった。宿泊はホームステイで、語学研修もアクティビティもよく練られたプログラムであった。
- ウ 3年尹藝燕(イン イエン)が英語スピーチコンテスト西部大会(中日新聞東海本社後援)で入賞。県大会へ出場した。

(8) 部活動

- 多くの部活動が活発に活動し、好成績を上げている。
- ・陸上部は東海高校総体に出場(4×100Mリレー・4×400Mリレー・800M・走り高跳び)
  - ・陸上部3年平田美羽が800Mで全国高校総体に出場。
  - ・剣道部は団体で、東海総体、東海選抜大会に出場。全国選抜大会(団体)でベスト16の成績を残した。
  - ・放送部は2年の熊本愛が、静岡県高等学校総合文化祭で3位に入賞し、北信越高等学校選抜放送大会に出場した。
  - ・吹奏楽部は4年連続、全日本吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を受賞。東海アンサンブルコンテストでは、打楽器八重奏が金賞、木管六重奏が銀賞を受賞した。
  - ・男子の部活動も活発に活動しており、男子バスケットボール部は昨年に続き新人大会で県大会出場へ、バドミントン部男子も西部大会団体戦準優勝で県大会に出場した。
  - ・共学化と共に立ち上げたサイエンス部は、浜松市主催の科学フェスにブースを出展するなど活発に活動している。

(9) 生徒指導

- ア 1学期中盤、SNSの不正使用で指導を受ける生徒が多かった。授業の様子を隠し撮りしたものをSNSに載せるなど深く考えず行う者が多くみられた。
- イ トイレにトイレトペーパーをまるごと流すなどのいたずらと思われる事例もあったが、生徒はおおむね落ち着いた学校生活を送っている。

(10) 学校行事

- ア 創立記念式典には卒業生で弁護士の中野江里香さんに講演をお願いした。海の星の卒業生であることが世間の期待となっていることや挫折に立ち向かうことで節のある強

- い人間になれることなどを語り、夢や目標を簡単にあきらめないよう生徒に話してくれた。
- イ ベリタスプラザは晴天に恵まれ、1500 人近いお客様を迎え行われた。今年のテーマはグローバルで、クラスごとに担当する国を決め、装飾やクラス展を制作した。
  - ウ 修学旅行は、初めて 11 月に行った。国際特進コースはシンガポール、国際教養コースは沖縄またはシンガポールへの修学旅行となったが、国際教養の生徒 39 人を含む 77 名がシンガポールを訪れた。
  - エ ステラサンクタクリスマスは、698 人の来場者があった。
  - オ サイエンス講演会として、東大名誉教授の栗田敬先生をお招きして、「火星から地球へ」をテーマに研究のあれこれをお話ししていただいた。
  - カ マラソン大会は晴天に恵まれ、男子 10Km、女子は 5 Km を参加者全員が規定時間内に完走した。
  - キ 体育祭は新しい競技も考案され、大人数の競技を取り入れるなど、生徒の参加意識が高まる内容だった。競技準備に時間がかかるなど、次年度への課題としたい。

(11) その他

- ア 体罰等の報告はない。今後も体罰のない指導を徹底する。
- イ 4 月下旬にインフルエンザが流行し、1 年 1 クラスが 3 日間、1 クラスが 1 日の学級閉鎖、2 学年が 3 日間の学年閉鎖を行った。
- ウ 前項の反省に立ち、冬季には室内の湿度管理、マスクの着用などを呼び掛けた結果、大きな流行には至らず過ごすことができた。
- エ 1 月に購買の業者が交代し、ファミリーマートの分店が購買として出店することとなった。